“日本らしさ”取りもどします。
参議院議員（全国区）
えとう せいいち
連合後援会報
平成28年1月5日発行
後援会内部資料
15号
携帯サイトも開設
ホームページ：www.eto-seiichi.jp
発行　衛藤晟一連合後援会 〒102-0083 千代田区麹町1-3-5 ダイアン麹町ビル401号 TEL:03(3511)7727 FAX:03(3511)7728
議員会館 〒100-8962 千代田区永田町2-1-1 参議院議員会館1216号 TEL:03(6550)1216 FAX:03(6551)1216
大分事務所 〒870-0042 大分市豊町1-2-6 TEL:097(534)2015 FAX:097(534)2449

寒中お見舞い申し上げます。

皆さまお元気でお過ごしでしょうか。新年早々、たくさんの年賀状、激励の文章をお送りいただき有難うございました。北朝鮮の核実験、中東のサウジ、イランの対立、国内株式の続落など、怪しい雲行きで新年の幕明けを迎えました。心引き締めて本年も思いっきり突っ走って行こうと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

（衛藤晟一事務所）

戦後70年を経て、
――明るい未来に向け再出発

新年明けましておめでとうございます。今年は、伊勢志摩サミット、リオ五輪、アメリカ大統領選挙が予定され、参議院議員選挙も行われます。**「今まで以上に国政の重要課題に取り組み、希望ある日本を創り上げていきます」**と語る衛藤晟一総理大臣補佐官に今年の抱負を聞きました。

新三本の矢
平和安全法制
障害者差別解消法

（写真は福祉新聞）

新三本の矢

第一弾の「三本の矢」では、円高・デフレを解消して日本経済を立て直そうと「大胆な金融政策」、「機動的な財政政策」、「民間投資を喚起する成長戦略」に取り組んでいます。その成果として、三年間で雇用は一一〇万人増え、失業率は二十年ぶり、有効求人倍率は二十三年ぶりの高水準になりました。また、賃上げも十七年ぶりの高さ。国・地方で約二十一兆円の税収増。多くの成果が出ていますが、まだ道半ばです。

そこで、今回、より具体的に国民の生活に照らして政策を考える中で出来たのが「新三本の矢」であり「一億総活躍社会」です。高齢者も若者も障碍者も、誰もが生きがいを持って暮らせる社会を目指します。数値目標として、二〇二〇年頃までに向けて「GDP六〇〇兆円」を目指し（新第一の矢）、「希望出生率一・八」（新第二の矢）と「介護離職ゼロ」（新第三の矢）を実現します。

具体的には、まず二〇一七年度末までに四十万人分の保育の受け皿を整備する計画を五十万人分に、二〇二〇年代初頭までに整備する約三十八万人分の介護の受け皿を約五十万人分に増やすことにしました。

年金、医療とともに、子育てや介護の心配がなくなることで将来の見通しが明るくなり、消費が拡大し、経済の好循環が強化され、これを追い風にして安心社会を実現するという狙いです。子育てと介護は社会保障の根幹ですので、新三本の矢は手段でもあり、目的でもあります。

新三本の矢は野心的な目標です。できない理由を並べることは簡単です。高い目標を自らに課し、本気で実現するために安倍政権は挑み続けます。

平和安全法制

昨年、国民を戦争の脅威から遠ざける体制を整えました。平和安全法制の成立です。安倍総理と十年以上前に訪米して以来、もはや一国のみでは自国を守り通せない時代に入ったと痛感してきました。北朝鮮による四度の核実験と日本に十分に届くミサイル開発。中国の不透明な軍備拡大（国防費が過去二十七年間で四十一倍）と南シナ海・東シナ海への海洋進出。

日本のミサイル防衛システムは、日米共同で構築されており、日本を守る活動中の米国イージス艦が損害を受けた場合、この防衛システムは破られる。この強い危機感から極めて限定的な日本防衛型集団的自衛権が不可欠でした。平成二十四年の自民党総裁選、衆議院選挙で安倍総理が集団的自衛権の行使を可能にする公約をしたのも、国民の命と平和な暮らしを守り抜くために避けて通れないと考えたからです。

「徴兵制になる」、「戦争する国になる」、「違憲」という批判がありましたが、そのようなことは絶対にありません。憲法第九条の「必要最小限度の武力の行使しか認められない」との従来の政府見解の論理は不変であり、合憲かつ法的安定性は確保されています。

私は自民党総裁直轄の平和安全法制理解促進委員会の委員長として、法制が少しでも国民にとって分かり易く理解できるようにするためのテキスト・Q&A・資料集・チラシを制作し、その必要性を訴えてきました。安倍政権はこれからも国民を守るために責任ある政権運営をしてまいります。

七十年総理談話

昨年は戦後七十年の節目の年。安倍総理大臣談話は二十世紀や戦後の我が国の平和国家としての歩みを振り返り、我が国の未来を明るく照らす大きな区切りをつけました。戦後、世界の寛容の心によって日本が国際社会に復帰したこと、先の大戦の教訓、先人のたゆまぬ努力で戦後の焼け野原から復興したことを未来へ語り継ぎ、先の大戦に何ら関わりのない子や孫に謝罪を続ける宿命を負わせてはならないと述べたことによって、この国をより良い形で将来に引き渡すことができました。そして二度と戦争の惨禍を繰り返さないとの誓い。国際社会に対して我が国が平和な世界を追求し続ける国家であることを示しました。

障害者差別解消法

安倍政権発足時、障害者差別解消法案は国会に提出する可能性の低い位置づけでしたが、全ての人が障碍の有無にかかわらず相互に尊重し共生し合う社会を一刻も早く実現しなければならないと考えていました。そこで、私は政府と与党の両ワーキングチームのトップとして関係団体の意見も聞きながら法案をまとめ上げ、国会に提出し、約半年後の平成二十五年六月、異例のスピードで法案成立に導きました。

その障害者差別解消法がいよいよ本年の4月、事業者等が守るべきガイドラインの制定・周知を経て、施行されます。全ての障碍者の尊厳が重んじられる社会づくりに向けて全力を尽くしてまいります。

本年も皆様の益々のご多幸とご健勝をお祈り申し上げますとともに、皆様には変わらぬご支援、ご指導とご厚誼を賜りますよう、何卒よろしくお願いします。

●えとう　せいいち●

昭和二十二年、大分市生まれ。大分上野丘高－大分大卒。市議、県議を経て平成二年、衆議院議員初当選。四期の間、運輸政務次官、厚労委員長、厚労副大臣等歴任。平成十九年の参議院議員選挙(比例代表)で当選。現在二期目。内閣総理大臣補佐官、文教科学委員会委員、拉致問題等に関する特別委員会委員、国の統治機構に関する調査会委員、自民党障害児者問題調査会会長、自民党大分県支部連合会会長。

セミナーに400人

「えとうせいいちと明日を語る会2015Winter」は平成27年12月3日、東京・麹町の都市センターホテルで行われ、400人を超える参加者で賑わいました。

このセミナーは、衛藤晟一を支援する会員同士の親睦を深めるとともに、タイムリーな話題にスポットを当てた講演を行うもの。

今回は講師に政治ジャーナリストの細川珠生さんを迎え、「次世代のための教育と憲法」と題したテーマで講演を行いました(写真)。

家庭での教育や道徳をはじめ、女性ならではの目線から話をする細川さん。憲法については「自主憲法の制定が、先人たちの悲願」と会場を埋め尽くした参加者に熱く訴えました。

セミナーは毎年、夏冬の2回行われており、次回は6月に予定。多くの皆さんの来場を、期待しています。

県議団と要望活動

自民党大分県議団(阿部英仁議員会長、御手洗吉生幹事長)20人が平成27年11月24,25日、要望活動で上京、県連会長を務める衛藤議員とともに各省庁を訪れ、要望活動を行いました。

今回の要望は①ラグビーW杯・屋内スポーツ施設整備について②海岸の高潮、地震、津波対策について③東九州新幹線整備について一などが中心。財務省をはじめ国土交通省、農林水産省、文部科学省、厚生労働省、内閣官房・地方創生など6省庁を訪ね大臣等に熱心に説明をして要望書を渡しました。(写真は塩崎恭久厚労大臣との懇談)

発達障碍について 稲田政調会長に要請

自民党の障害児者問題調査会の会長を務める衛藤議員は、先ごろ党本部に稲田朋美政調会長を訪ね、発達障碍者の支援の在り方に関する今後の方向性について同会で取りまとめた提言を報告しました(写真)。

この中では①発達障碍の実態等の研究の推進②円滑かつ明確な診断の推進③発達障碍児の療養等の充実④保護者の対応⑤学校における特別支援教育の推進⑥成人期の支援の推進一をあげ、今後、厚生労働省や文部科学省をはじめとする関係省庁に必要な予算の確保、事業や制度の実施、運営等の見直しを速やかに実施するように求め、発達障碍者や家族が安心して暮らせることができるよう地方公共団体と連携しつつ必要な支援を構築するように提言しています。

理容競技大会で挨拶

67回を数える理容競技大会(主催・全国理容業生活衛生同業組合連合会、大森利夫理事長)が先ごろ、埼玉県で行われ、競技者は日ごろ磨いた技術を競いました。

衛藤議員は来賓として演壇に立ち(写真)、競技者の努力を称えながら同連合会の発展に全力で取り組むことを約束しました。

同連合会は、平成19年の参議院議員初当選から熱い支援をいただいており、理事長の大森さんは、19年、25年ともに選挙対策本部長を務めています。

グアムで日米合同慰霊祭

衛藤晟一議員が会長を務める南太平洋戦没者慰霊協会(森喜朗名誉会長、安倍晋三顧問)が主催する「日米合同慰霊祭」が平成27年12月13日、グアムで行われ、衛藤議員も参列しました。

同協会は、悲惨な戦争は繰り返さない、世界の人々は、みんな平和に幸福に共存しなければならないという不戦の誓いをもとに、第二次世界大戦で激しい戦いのあったグアム、ガダルカナル、ボルネオに、戦死者を合祀する象徴的慰霊塔と平和記念公苑を建設、昭和57年には玉砕の島を代表するグアム島に、諸宗教合同の平和祈りの家(我無山平和寺)を建築し諸慰霊の供養と世界平和の祈願を行いつつ、平和運動を展開しています。

9回目を数えた今回は、在ハガッニャ日本国総領事・清水久次閣下、アプロン大司教閣下、グアム日本人会・高木秀暢会長、遺族の方々など多くが列席し、衛藤議員は「最愛の肉親を失った悲しみに耐え、苦難を乗り越えてこられたご遺族の皆さまに深く敬意を表します」と挨拶。さらに「当協会の顧問であり、日本国総理大臣の安倍総理は様々な場で『戦争の惨禍を決して繰り返さない』との決意を示しています。今日、私たちが享受している平和と繁栄は、先の大戦での戦没者の方々の尊い犠牲の上にあることを片時も忘れていないからです」と続け、「私は当会の会長として、日本政府の一員として、安倍総理とともに、世界の恒久平和を追求するとともに、日本とアメリカとグアムの友好関係と日米同盟の深化に貢献してまいります」と締めくくりました。

この慰霊祭は毎年グアムで行われており、衛藤議員も会長として列席しています。

仏前首相が表敬訪問

衛藤晟一総理補佐官は先ごろ、首相官邸で、仏共和国前首相で同国前ナント市長のジャル・マルク・エロー氏の表敬訪問を受けました。

エロー氏一行は、2017年仏国ナント市で開催予定の「日本のアール・ブリュット展」を通して日仏両国の連携を深めることを目的に来日したもの。この日は、滋賀県のボーダレス・アートミュージアムNO−MA、東京藝術大学で講演を行った後に官邸を訪れ、障碍者の優れた才能を世界に発信するため事業の意義や可能性について衛藤補佐官と意見を交わしました(写真は一行との記念に)。

面談後、衛藤補佐官は「エロー氏との面談はアール・ブリュットをはじめとする障碍者の芸術文化を振興することが、障碍の有無にかかわらず、だれもが活躍できる成熟した社会の形成につながることを互いに確かめるいい機会になった」と話しました。

領土を示す重要資料を確認

日本の領土を守るため行動する議員連盟(新藤義孝会長)は先ごろ、海上保安庁を視察、衛藤晟一議員も参加しました。

この視察は、海上保安庁が所蔵する竹島が我が国固有の領土であることを示す重要な資料の保存状況を確認し、あわせて領土関連の貴重な資料のデータ化、データベース化の検討や領土問題の広報啓発施設の在り方を検討するため行われたもの。

東京・江東区の同庁海洋部に着いた一行は、はじめに明治41年近代的な測量法で初めて測量された竹島の地図を閲覧(写真)し、あわせて尖閣諸島、南鳥島など、我が国の国境離島の古い地図を確かめながら改めて領土を守る決意を確認しました。

創生「日本」が研修会

超党派の議員連盟・創生「日本」(安倍晋三会長、188人)は先ごろ、都内のホテルで研修会を行い約600人の会員が参加しました。

創生「日本」は真の保守政権を目指す議員が平成22年に結成した議員連盟で、勉強会や講演会で政策提言を作成、街頭情宣などを中心に活動しており、今回の東京研修会はその一環として行われたもので5回を数えています。衛藤議員(写真)は設立呼びかけ人の中心議員の一人で発足以来、幹事長を務めており、安倍内閣には数多くの大臣を誕生させている議連でもあります。

この日は、講師にジャーナリストの櫻井よしこさん、文芸評論家の小川榮太郎さんを招き講演会を開催、その後に安倍会長も参加して懇親会を行い親睦を深めました。

全国行脚で 「平和安全法制」訴える

自民党は平成27年7月、平和安全法制の整備のための関連法案に対する国民の理解を深めるため、平和安全法制推進本部(江渡聰徳本部長)の下に「平和安全法制理解促進委員会」を設置。その委員長に衛藤晟一議員が就任しました。

同法案は、昨年9月の参議院で賛成多数で成立していますが、「法案の内容が分かりにくい」との指摘が数多く寄せられ、「それなら、全国を回って直接説明をしたら良い」と衛藤議員を中心に委員会が設置されました。

これまでに衛藤議員は北海道から関西地方まで9会場で講師を務め、2,000人余りの来場者に、説明いたしました。

ガンバレ！ せいちゃん!!

司会業
小西裕美子 さん

私が衛藤先生と初めてお会いしたのは、もう十年ほど前になりますが、以来ずっと『えとうせいいちと明日を語る会』の司会をさせていただいております。

毎回、著名なゲスト講師を招いて講演会が主体となっていて、いつもどんな方がどういう講演をされるのか、私も楽しみに伺っているのですが、ふっと衛藤先生を拝見すると、常に真摯な姿勢でメモを取りながら、聞いていらっしゃるのです。

大人になると、なかなか勉強をする機会を持つことが難しく、また知らないことを学ぶこと自体、恥ずかしいと考える人も少なくないと思います。

先生は国会議員という多忙な身でありながら、ほんの少しの時間も学ぶことを忘れてはならない、という思いをお持ちでいらっしゃいます。

『吾道、一以貫之』、終始信念を貫く、先生の姿に心が打たれます。

鹿児島市
社会福祉法人
ゆうかり保育園　保育士
神之恵理 さん

障がいがあってもなくても、みんな同じ。みんなで一緒に過ごす日々のなかで、相手を理解し思いやる子どもたちの姿に、胸が温かくなります。

喀痰吸引の必要なお友だちに好きな歌を歌ってあげたり、お友だちの苦手なこと、得意なことを理解して、そっと寄り添ってあげたり。そんな子どもたちがもっと増えて、やがて大人になるとき、日本中が温かく、優しくなると思います。

みんなの笑顔のために、衛藤先生頑張ってください。